

<b>活動名</b>	団体名 ふるさと宮園ビオトープの会
宮園小学校にビオトープを造ろう	地 域 広島県廿日市市
	代 表 者 会長 小林 秀樹
	支援金額 15万円
<b>活動概要</b>	
<p>ビオトープ造りをはじめて本年4月で7年が経過しました。この間、必要に迫られて購入した工具・刃物類が多数あり、学校内での活動ですので安全確保のための保管場所に苦労致して居りました。今般、貴財団の御支援を頂き立派な倉庫を設置することが叶い用具類の収納に万全を期すことが出来るようになり活動に携わるビオトープの会員はもとより教師も大いに安心いたしております。ありがとうございました。</p> <p>なお、倉庫については子どもたちは勿論、会員たちもビオトープには大きな夢を持っておりこれらの夢を託す意味を込め、ビオトープの愛称である”くるりん村”にちなみ「くるりん村の夢の蔵」と命名され活用しています。</p>	
<p><b>◆実施時期</b> 廿日市市宮園1丁目1-2 宮園小学校グランドの一角約1000m<sup>2</sup></p> <p><b>◆参加人数</b> ビオトープの会では年間を通じ毎週土曜日午前中を活動日と定めており、7~10名が毎週作業に当たっており、昨年度を例にとると、年間作業日数57日延べ人員481名が参加しました。 平成22年度も同程度になる見込みです。</p>	



平成22年4月マツダ財団の支援による倉庫  
「夢の蔵」と命名



宮園小学校ビオトープ(くるりん村)の全景



山からの自然水がせせらぎ川を形づくり  
ビオトープを潤している



3年生によるビオトープの畑で観察し育てた  
大根の収穫に歓声と感謝

### ◆実施に伴う効果

ビオトープの会では公民館の協力を頂き、年間2回のビオトープ観察会と、近くを流れる川での「川探検」など親子・地域住民を対象にした自然観察の機会を設けていますが、住民、特に保護者の間ではビオトープや自然環境に対する関心が深まってきていると感じています。

また、聞くところによると宮園小学校ビオトープの活動が刺激となり、隣接する小学校でも放置されていたビオトープを復活させる話が出てきたとのことです。

### ◆苦労した点

ビオトープ作りに関する苦労は、楽しみの方が上回り特に感じていませんが、昨年までは学内の器具による事故防止が問題でした。今回の倉庫の設置により工作道具などを子どもの目から遮断隔離することが可能となり、心配がなくなり助かっています。

予算は、コミュニティ協議会から年間15万円程度の支援が有り、また、夏祭りなどの機会に夜店を出店し売り上げを活動経費にあてるなどの工夫によりなんとか運営出来ています。

PRは「にこにこ活動便り」「ビオトープ通信」を隨時発行し、住民とのコミュニケーションをはかっています。

外部に対するPRについては、最近では中国新聞6月14日朝刊9面で大きく紹介された事例が有ります。そのほか、リビング広島などでも時折紹介されています。

### ◆今後の課題・発展の方向性

昨年度で一応の造作は完了したものと考え、今後は地域の植生や生き物の定着・育成が主テーマとなっています。現在、広島県環境保健協会職員を講師に依頼して観察会や生き物調査を実施していますが、今後講師として継続して頂けるか否かが問題に成って来ると考えています。その面での展望は開けていないのが現状です。

また、現在活動している男性は高齢者が中心であり将来を思うと早期に後継者を取り込む必要が有ると考えています。

### ◆活動を終えての感想・意見等

個人的な思いとしては、自身子どものころ山中に秘密基地と称して小屋を作り、がき大将的に遊んだことを思い出し今どきの子どもたちにも目一杯自然の中で遊ばせてやりたいとの思いに駆られています。